

北見工業大学学報

第232号 (2009年3月号)

目 次

学位記授与式	平成20年度学位記授与式を挙行……………	2
告 辞	学位記授与式告辞……………	3
入 試	大学院工学研究科(第2次)入学試験の実施……………	6
	入学試験の実施……………	7
研 究 助 成	三井物産環境基金「2008年度研究助成」交付決定……………	8
	(財)日本板硝子材料工学助成会 平成21年度(第31回)研究助成交付決定……………	8
	平成20年度共同研究の受入状況……………	9
	平成20年度奨学寄附金受入状況……………	9
	平成21年度共同研究の受入状況……………	10
	平成21年度奨学寄附金受入状況……………	10
人 事	人事異動……………	11
	各種委員会等委員名簿……………	13
受 賞	多田旭男特任教授(地域連携・研究戦略室) 平成20年度触媒学会功績賞を受賞……………	21
国 際 交 流	2009年留学生交流の夕べを開催……………	22
諸 報	「シーズ発掘試験」公募解説セミナーを開催……………	23
	文部科学省科学技術総合研究委託・地域再生人材育成事業 「新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン・工農教育プログラム、 第2期生成果発表会、修了式」を実施……………	24
	知的財産セミナーを開催……………	25
	校舎改修工事の完了……………	26
日 誌	2月・3月……………	27

= 学位記授与式 =

平成 20 年度学位記授与式を挙行

(総務課)

平成 20 年度学位記授与式が、3月 18 日(水)午前 10 時から北見市民会館大ホールで行われました。

学部 390 人の卒業生、大学院博士前期課程 116 人及び大学院博士後期課程 6 人の修了生に対し、鮎田学長から学位記が授与されました。

引き続き、学長告辞、小谷北見市長及び永田後援会会長からの祝辞の後、卒業生を代表して機械システム工学科 米山一豊さんが、「社会に役立つ技術者として活躍していきたい」と答辞を読み上げ、式は無事終了しました。

卒業生、修了者数は、次のとおりです。



鮎田学長より学位記授与

学部

学 科 名	卒業生数(人)
機械システム工学科	79
電気電子工学科	71
情報システム工学科	54
化学システム工学科	54
機能材料工学科	48
土木開発工学科	84
合 計	390

大学院博士前期課程

専 攻 名	卒業生数(人)
機械システム工学専攻	24
電気電子工学専攻	19
情報システム工学専攻	18
化学システム工学専攻	10
機能材料工学専攻	27
土木開発工学専攻	18
合 計	116

大学院博士後期課程

専 攻 名	卒業生数(人)
システム工学専攻	4
物質工学専攻	2
合 計	6

= 告辞 =

学位記授与式告辞

学長 鮎田 耕一

学士卒業、大学院修了の皆さん、おめでとうございます。

学部生の皆さんは4年間、大学院生はもっと長く、それぞれの努力が実り、めでたく学位記授与式を迎えられたことをお祝い致します。

本日は、ご多用にもかかわらず、北見市長の小谷様、大学後援会会長の永田様にご臨席を賜り、また、多くの父母の方にご出席いただき、学位記授与式を挙行できますことをうれしく思います。

本年度は、学士 390 人、修士 116 人、博士 6 人の合計 512 人に学位記を授与致しました。

本日の卒業は卒業生皆さんの努力のたまものではありますが、同時に本日列席されておられる、あるいは列席されてはいなくても、皆さんを温かく見守り続けてくれたお父さん、お母さんをはじめとするご家族、友人の皆様方の精神的、経済的な支援のおかげでもあります。特に、ご両親は今日この日を晴れやかな、そして少しほっとした気持ちで迎えられていることと思います。そのようなご両親をはじめご家族の皆様にご心からお喜び申し上げます。

我が国では大学全入時代などと言われてはいますが、世界を見渡すと貧困などのため大学進学など及びもつかない国に住んでいる人が大勢います。日本とてまだまだ同世代の人が全員大学に進学できるわけではないなかで、皆さんのように選ばれた人だけが体験できる大学の学位記授与式は、人生のなかでも得難いセレモニーの一つです。そして、本日受け取った学位記は、生徒として学生として長い間勉学を続けてきた皆さんに対する賞状とも言えましょう。



皆さん方の多くにとって、今日は学生時代の最後の日ですが、一方で社会人へと今まで経験をしていない世界に一步を踏み出す旅立ちの日でもあります。

現代の社会では何事も早いスピードで変化していますが、皆さんが大学で学んだ科学技術の分野では、特にそのスピードが一段と速いと言えます。この4年間を振り返ってみても、科学技術の面で様々な出来事がありました。今年、ガリレオ・ガリレイが自作の望遠鏡で宇宙を眺めてから400年という記念の年にあたりますので、科学技術の進歩の代表例として、日本、日本人と宇宙科学の4年間を振り返ってみますと、一昨日3月16日の夕刊に宇宙開発に関する2つの記事が載りました。

一つは大型のロケットの10分の1のコストしかかからないため今注目を集めている道産の小型ロケット「カムイ」が実用打ち上げに成功したという記事です。この製造と打ち上げを担っ

ているのは植松電気という北見工業大学の卒業生が経営している会社です。卒業生の活躍はうれしい限りです。

もう一つは、スペースシャトル「ディスカバリー」で若田光一さんが3度目の宇宙飛行に飛び立ち、国際宇宙ステーションに日本人初の長期滞在をこなすことになったという記事です。

華々しい話題の多いスペースシャトルですが、実は学部生の皆さんが生まれた年にスペースシャトル「チャレンジャー」が打ち上げ直後に爆発し、日系二世の方を含む宇宙飛行士7人が死亡した事故がありました。このとき、後に日本人宇宙飛行士の第1号となる道産子の毛利衛さんをはじめとする日本の3人の宇宙飛行士は、2年後からの初飛行に向けて訓練をしていたときでした。それから20数年。

学部の皆さんが入学した4年前には、野口聡一さんがスペースシャトル「ディスカバリー」で日本人初の船外活動をしています。皆さんが2年次になった年には、冥王星が惑星から格下げになるという話題もありましたが、3年次のときには月探査機「かぐや」がアポロ計画以来最大規模の本格的月探査機として月から美しい地球のハイビジョンの映像を送ってきましたのは、印象的でまだ記憶に新しいことです。ついこの間2月中旬には、新たに子供の頃からの宇宙への夢を持ち続けた若い2人の飛行士が国際宇宙ステーションに滞在する候補者として10年ぶりに選ばれたばかりです。去年は土井孝雄さんがスペースシャトル「エンデバー」に搭乗し日本の宇宙実験棟「きぼう」の設置に成功し帰還しています。この土井さんはあの20数年前の爆発事故の時に訓練していた3人の日本人宇宙飛行士の1人です。

皆さんが在学していたわずか4年の間に、日本あるいは日本人を中心として見ただけでもこのようにたくさんの宇宙開発の成果があが

っていますが、何よりも宇宙飛行士の方々の夢を追い続けあきらめない人間の力のすごさに圧倒されます。

皆さんにもそれぞれの夢があるでしょう。

今日からその実現に向けて一步一步確実に歩んでいただきたいと思います。宇宙科学に限らず、これから皆さんが科学技術者として生きていくためには、科学技術の進歩についてだけでなく、他より一歩先に進むよう心がけねばなりません。あえて申しあげれば、今日大学での教育が終わっただけで、皆さん方の勉強は、これから始まるのです。

学生としての皆さんを評価する基準は、主に試験の点数でしたので、定量的で非常に単純だったと言えます。しかし、これからはこの評価の基準、尺度が自分のおかれている立場、状況に応じて多様化し、かつ複雑化してきます。成績による評価に加えて、協調性とかコミュニケーション能力とか場合によっては指導力というような尺度も加わってきます。北見工業大学ではこれらの基礎的な力を身につけるための教育プログラムを実施していますが、それを基に自分自身のプログラムを充実・発展させ社会に認められるものにするための努力は皆さんに委ねられています。

価値判断の基準が多様化するなかで、皆さん方がその能力と情熱と意欲に基づいた技術者あるいは研究者として、そして家庭人として人間性を育み、自分自身の物差しで主体的に物事を考え、自分の価値観を大切に、人生における独自の花を咲かせることを心から祈っております。

私は40年間にわたって、北見工業大学で教鞭を執り、多くの教え子を世の中に送り出してきました。そのようななかで、卒業生へのはなむけのことばとして長年話していることが2つ

あります。

一つは、人と人とのつながり「縁」についてです。

NHKで今月末まで放映されている朝の連続ドラマでもこの縁・絆が主題歌になっています。皆さんは、日本中から、いや世界から何かの目に見えない糸に結ばれて、同期の人たちと同じ日にこの北見工業大学へ入学し、そして同じ日に卒業しようとしています。この大学同期生としての縁を大事にしてもらいたいと思います。毎年でなくとも同期会を開いてその絆を深めて欲しいと思っております。また、同期生以外にもサークルや研究などを通じて培った友人としての絆もあるでしょう。この絆が人生を豊かにします。偶然得たこの同窓の縁という、これからあえて苦勞して探す必要がない、天から与えられた宝を大事にしてください。

二つ目は、良き伴侶を見つけてください、ということです。

もちろん皆さんはまだ若いので結婚を急ぐ必要はありませんが、ほとんどの方はいずれ結婚するでしょう。良き伴侶を得て、心豊かな家庭を築いてください。そしてあなたがたの子どもたちが自分の親を誇りに思えるお父さん、お母さんになってください。子どもたちは私たち

の夢そのもの、未来そのものです。

宇宙開発に限らず、世界では予想すらしなかった、あるいは、できなかった様々なことが起きています。そのなかで、昨年九月にアメリカの大手証券会社の経営破綻に端を発し、全世界を席卷した景気の悪化は、我が国の大手企業をも経営不振に陥れ、大学生の就職活動にも悪影響を及ぼしていると報道されています。そのような環境の中で、幸いにも北見工業大学では採用内定取り消しを受けた学生はおりませんでした。このことは、技術系の国立大学である北見工業大学の底力であると感じています。

今日の皆さんの晴れやかな表情を見ていると、私にも希望がわいてきます。混沌とした先行きがやや不透明な時代ではありますが、皆さんには明日の社会を担う高い能力と同時に何事にも代えられない若さがあります。

皆さんがこれからの人生を心身ともに健やかに過ごせるよう、そして北見工業大学を卒業したことを誇りに思える人生を送られるよう、心から願って、お祝いの挨拶と致します。

本日は、誠におめでとうございます。



= 入試 =

大学院工学研究科(第2次)入学試験の実施

(入 試 課)

平成21年度大学院工学研究科博士前期課程(第2次)入学試験が、2月9日(月)(学力検査)と10日(火)(面接試験)に実施されました。

各専攻別の合格者数等は以下のとおりです。

また、平成21年度大学院工学研究科博士後期課程(第2次)入学試験が、2月9日(月)(面接試験のみ)に実施されました。

各専攻別、各課程別の合計者数等は以下のとおりです。

博士前期課程

専攻名	募集区分		一般選抜		学部3年次学生 対象選抜		外国人留学生 特別選抜	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
機械システム工学専攻	1	0	0	0	0	0	0	0
電気電子工学専攻	5	4	0	0	0	0	1	1
情報システム工学専攻	1	1	0	0	0	0	0	0
化学システム工学専攻	4	4	0	0	0	0	0	0
機能材料工学専攻	2	2	0	0	0	0	1	1
土木開発工学専攻	4	4	0	0	0	0	0	0
合 計	17	15	0	0	0	0	2	2

博士後期課程

専攻名	募集区分		一般選抜		社会人選抜		外国人留学生 選 抜	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
システム工学専攻	0	0	1	1	1	1	1	1
物質工学専攻	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	0	0	1	1	1	1	1	1

入学試験の実施

(入 試 課)

本学の平成21年度学生募集に対して、1月26日(月)から2月4日(水)までの受付期間に前期日程927人、後期日程1,330人の出願がありました。

前期日程は3月6日(金)に合格者を発表し、後期日程は3月20日(金)に合格者を発表しました。

今年度の入試実施結果は、次のとおりです。

前期日程

系 名	募集人員	志願者数	合格者数
機 械 ・ 社 会 環 境 系	64	250	157
情 報 電 気 エ レ ク ト ロ ニ ッ ク ス 系	63	417	167
ハ イ オ 環 境 ・ マ テ リ ア ル 系	46	260	136
合 計	173	927	460

後期日程

学 科 名	募集人員	志願者数	合格者数
機 械 ・ 社 会 環 境 系	56	508	56
情 報 電 気 エ レ ク ト ロ ニ ッ ク ス 系	42	451	42
ハ イ オ 環 境 ・ マ テ リ ア ル 系	36	371	36
合 計	134	1330	134

推薦入学

学 科 名	募集人員	志願者数	合格者数
機 械 ・ 社 会 環 境 系	40	57	48
情 報 電 気 エ レ ク ト ロ ニ ッ ク ス 系	35	47	36
ハ イ オ 環 境 ・ マ テ リ ア ル 系	28	43	35
合 計	103	147	119

= 研究助成 =

三井物産環境基金「2008 年度 研究助成」 交付決定

(研究協力課)

所 属	職名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
社会環境工学科	教 授	中山 恵介	知床を対象とした気候変動による寒冷地域の生態系システムへの影響評価	9,808 千円

(財)日本板硝子材料工学助成会
平成 21 年度(第 31 回)研究助成 交付決定

(研究協力課)

所 属	職名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
バイオ環境化学科	准教授	兼清 泰正	多孔質ガラス表面へのボロン酸基の導入による多色変化型糖センシングチップの作製	1,150 千円

平成20年度共同研究の受入状況

平成21年3月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等
国際交流センター	教授	山岸 喬	亜臨界水を用いた食品の加工	(社)北見工業技術センター運営協会
電気電子工学科	教授	小原 伸哉	太陽光発電パネルの有効活用に関する基礎研究	オホーツク新エネルギー開発推進機構
社会環境工学科	教授	高橋 修平	積雪保存・冷熱利用計画	(株)ジオアクト

平成20年度累計 94件

平成20年度奨学寄附金受入状況

平成21年3月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
社会環境工学科	教授	鈴木 輝之	ジオテキスタイルを用いた補強土壁の凍上対策研究のため	前田工織(株)	円 1,000,000
	学長	鮎田 耕一	奨学研究費のため	太平洋セメント(株)	300,000
	学長	鮎田 耕一	大学広報等への支援(アトリウム音響設備)のため	北見工業大学後援会「KITげんき会」	1,606,500
社会環境工学科	准教授	高橋 清	工学研究のため	(株)ドーコン	500,000
社会環境工学科	教授	大島 俊之	構造物の耐震補強設計に関する研究のため	(株)開発工営社	1,000,000
	学長	鮎田 耕一	学生・教職員の特許化支援ほかのため(北海道TLOとの包括協定への支援ほか)	北見工業大学後援会	1,315,000
社会環境工学科	准教授	亀田 貴雄	雪氷学分野の研究奨励のため	(株)清月	32,550
社会環境工学科	教授	川村 彰	工学研究に関する奨励のため	ティーアール・コンサルタント(株)	3,000,000

平成20年度累計 69件

平成21年度共同研究の受入状況

平成21年3月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等
電気電子工学科	教授	柏 達也	大規模電磁界シミュレーションに関する研究	(株)本田技術研究所 四輪開発センター
マテリアル工学科	教授	高橋 信夫	斜里町における環境試料(下水汚泥・放流水)中の微量環境有害成分の定量に関する長期的研究	斜里町役場
共通教育グループ	准教授	伊藤 純一	常呂川水系におけるゴルフ場開発の下流水産資源への影響に関する研究	北海道漁業環境保全対策本部
マテリアル工学科	准教授	南 尚嗣	紋別市における汚泥・放流水中下水の有害微量成分の定量に関する長期的研究	紋別市
マテリアル工学科	准教授	村田 美樹	美幌町における下水汚泥・放流水中の微量成分の長期モニタリングに関する研究	美幌町役場
国際交流センター	教授	山岸 喬	アイヌ薬用植物の調査研究	(株)ノエビア
社会環境工学科	教授	鈴木 輝之	連続繊維補強土工法によるのり面基盤の耐凍上性(その2)	日特建設(株)
機械工学科	准教授	三木 康臣	ヤナギ類の短伐栽培とサルファーフリー軽油(BTL)製造に関する研究	三基開発/ 北海道木質バイオマス研究会
国際交流センター	教授	山岸 喬	サンゴの高機能性化の研究	(株)健康水素協会
マテリアル工学科	教授	青木 清	液体急冷プロセスを利用したNb-Ti-Ni系複相水素透過膜の開発	三菱マテリアル(株) 加工事業カンパニー
社会環境工学科	教授	川村 彰	顧客満足度(CS)を指標とした路面評価システムの構築に関する研究	(株)ニュージェック
国際交流センター	教授	山岸 喬	ハマナスポリフェノールに関する研究	協和発酵バイオ(株)
社会環境工学科	准教授	高橋 清	減災対策における(避難者支援から見た)企業の役割に関する基礎的研究	北見土木技術協会
機械工学科	准教授	三木 康臣	寒冷地仕様・集合住宅向けソーラーシステムの開発	(株)大阪テクノクラート
電気電子工学科	教授	小原 伸哉	太陽光発電パネルの有効活用に関する基礎研究	オホーツク新エネルギー開発推進機構
社会環境工学科	教授	高橋 修平	積雪保存・冷熱利用計画	(株)ジオアクト
電気電子工学科	教授	田村 淳二	風力発電システムの制御技術に関する研究	(株)日立製作所
国際交流センター	教授	山岸 喬	白老薬膳料理の調査・研究	白老町

平成21年度累計 18件

平成21年度奨学寄附金受入状況

平成21年3月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄 附 金 額
共通教育グループ	准教授	伊藤 純一	「ゴルフ場開発による常呂川水質調査・研究」助成のため	北海道漁業環境保全対策本部	円 1,316,000

平成21年度累計 1件

=人事=

人 事 異 動

(総務課)

○大学発令

発令年月日	現職名	氏名	異動内容
21.3.31	工学部教授	細矢 良雄	定年退職
"	工学部教授	藤原 祥隆	定年退職
"	工学部准教授	村田 年昭	定年退職
"	企画広報課長	木村 有利	定年退職
"	研究協力課係長	吉田 正敏	定年退職
"	工学部特任教授	多田 旭男	雇用期間満了退職
"	工学部助教	中西 知恵子	辞職
"	財務課経理室長	渡部 和幸	辞職
"	研究協力課長	大山 弘正	辞職(弘前大学へ転出)
"	財務課副課長	川上 豊	辞職(北海道大学へ転出)
"	財務課係長	今田 有治	辞職(北海道大学へ転出)
21.4.1	工学部准教授	星 雅之	工学部教授
"	工学部准教授	有田 敏彦	工学部教授
"	(新規採用)	田口 健治	工学部准教授
"	(新規採用)	榊井 文人	工学部准教授
"	(新規採用)	新井 博文	工学部准教授
"	(新規採用)	斎藤 全	工学部助教
"	企画広報課副課長	小野 勝巳	企画広報課長
"	日本学生支援機構学生生活部特別支援課長	谷川 敦	研究協力課長
"	企画広報課係長	坂田 寿	企画広報課副課長(係長兼務)
"	財務課係長	久田 貢	財務課副課長(係長兼務)
"	北海道大学財務部調達課係長	水野 範善	財務課副課長
"	学生支援課副課長	小野 恵子	研究協力課副課長

発令年月日	現職名	氏名	異動内容
21.4.1	総務課係長	藤田 美代子	学生支援課副課長(係長兼務)
"	企画広報課係長	栄浪 晋也	総務課係長
"	財務課係長	齊藤 敏浩	企画広報課係長
"	財務課係長	山本 涉	企画広報課係長
"	北海道大学財務部主計課主任	大桃 琢磨	財務課係長
"	企画広報課係長	松沼 拓夫	財務課係長
"	財務課主任	八木澤 学	財務課係長
"	学生支援課係長	斉藤 靖子	研究協力課係長
"	総務課係長	伊藤 孝子	学生支援課係長
"	財務課	工藤 圭輔	財務課主任
"	研究協力課	木村 加寿美	総務課
"	(新規採用)	森原 早紀	企画広報課
"	情報図書課	反保 聡史	財務課
"	(新規採用)	大内 俊輔	財務課
"	(新規採用)	根本 綾子	研究協力課
"	財務課	尾河 康典	情報図書課
"	総務課	白鳥 善裕	日本学術振興会(研修生)

各種委員会等委員名簿

(総務課)

平成21年4月1日現在

役員会／経営協議会／教育研究評議会／学長補佐

	役員会	経営協議会	教育研究評議会	学長補佐	
議長	学 長 鮎 田 耕 一	学 長 鮎 田 耕 一	学 長 鮎 田 耕 一		
委員	理 事 高 橋 信 夫	理 事 高 橋 信 夫	理 事 高 橋 信 夫	国際交流担当 大 島 俊 之	
	理 事 佐 々 木 克 孝	理 事 佐 々 木 克 孝	理 事 佐 々 木 克 孝	評価担当 小 林 道 明	
		副 学 長 田 牧 純 一	副 学 長 田 牧 純 一	広報担当 田 村 淳 二	
		副 学 長 青 木 清	副 学 長 青 木 清	地域連携担当 鈴 木 輝 之	
		事務局 長 石 川 護	機 械 工 学 科 佐 々 木 正 史	入 試 担 当 山 下 聡	
		前旭川工業高等専門学校 長 前 晋 爾	社会環境工学科 鈴 木 輝 之		
		北海道大学大学院 工 学 研 究 科 長 三 上 隆	電気電子工学科 野 矢 厚		
		独立行政法人科学技術振興機構 JSTイノベーションラボ北海道館長 大 味 一 夫	情報システム工学科 榮 坂 俊 雄		
		東京電波機代表取締役会長 熊 谷 秀 男	バイオ環境化学科 青 山 政 和		
		㈱北辰工業取締役会長 越 前 良 臣	マテリアル工学科 阿 部 良 夫		
		北見商工会議所会頭 永 田 正 記	共 通 講 座 照 井 日 出 喜		
		北海道経済産業局長 山 本 雅 史	地域共同研究センター長 高 橋 修 平		
			機器分析センター長 吉 田 孝		
			未利用エネルギー研究センター長 庄 子 仁		
			情報処理センター長 亀 丸 俊 一		
			国際交流センター長 山 岸 喬		
			技 術 部 長 羽 二 生 博 之		
			事 務 局 長 石 川 護		
			機 械 工 学 科 柴 野 純 一		
			社会環境工学科 山 下 聡		
			電気電子工学科 吉 田 公 策		
			情報システム工学科 鈴 木 正 清		
			バイオ環境化学科 堀 内 淳 一		
			マテリアル工学科 増 田 弦		
			共 通 講 座 鈴 木 一 央		
任 期	20. 4. 1 ~ 22. 3. 31	20. 4. 1 ~ 22. 3. 31	20. 4. 1 ~ 22. 3. 31	20. 4. 1 ~ 22. 3. 31	

教務委員会／学生委員会／入学者選抜委員会／図書館委員会／国際交流委員会

	教 務 委 員 会	学 生 委 員 会	入 学 者 選 抜 委 員 会	図 書 館 委 員 会	国 際 交 流 委 員 会
委員長	副 学 長 田 牧 純 一	副 学 長 田 牧 純 一	副 学 長 佐々木 克 孝	図 書 館 長 青 木 清	副 学 長 高 橋 信 夫
副委員長			学 長 補 佐 山 下 聡		学 長 補 佐 大 島 俊 之
委 員	機 械 工 学 科 大 橋 鉄 也	機 械 工 学 科 林 田 和 宏	機 械 工 学 科 松 村 昌 典	機 械 工 学 科 柴 野 純 一	国 際 交 流 セ ン タ ー 長 山 岸 喬
	社 会 環 境 工 学 科 三 上 修 一	社 会 環 境 工 学 科 中 山 恵 介	社 会 環 境 工 学 科 渡 邊 康 玄	社 会 環 境 工 学 科 早 川 博	国 際 交 流 セ ン タ ー 専 任 教 員 荒 谷 陽 子
	電 気 電 子 工 学 科 柏 達 也	電 気 電 子 工 学 科 植 田 孝 夫	電 気 電 子 工 学 科 小 原 伸 哉	電 気 電 子 工 学 科 谷 藤 忠 敏	機 械 工 学 科 渡 辺 美 知 子
	情 報 シ ス テ ム 工 学 科 鈴 木 正 清	情 報 シ ス テ ム 工 学 科 山 田 浩 嗣	情 報 シ ス テ ム 工 学 科 河 野 正 晴	情 報 シ ス テ ム 工 学 科 渡 辺 文 彦	社 会 環 境 工 学 科 永 禮 英 明
	バ イ オ 環 境 化 学 科 中 谷 久 之	バ イ オ 環 境 化 学 科 星 雅 之	バ イ オ 環 境 化 学 科 菅 野 亨	バ イ オ 環 境 化 学 科 福 井 洋 之	電 気 電 子 工 学 科 田 村 淳 二
	マ テ リ ア ル 工 学 科 松 田 剛	マ テ リ ア ル 工 学 科 渡 邊 眞 次	マ テ リ ア ル 工 学 科 松 田 剛	マ テ リ ア ル 工 学 科 伊 藤 英 信	情 報 シ ス テ ム 工 学 科 今 井 正 人
	共 通 講 座 福 士 航	共 通 講 座 水 本 正 晴	共 通 講 座 伊 関 敏 之	共 通 講 座 平 野 温 美	バ イ オ 環 境 化 学 科 吉 田 孝
		国 際 交 流 セ ン タ ー 長 山 岸 喬			マ テ リ ア ル 工 学 科 石 川 和 宏
					共 通 講 座 ポゼック・クリストファー
					事 務 局 長 石 川 護
任 期	20. 4. 1 ~ 22. 3. 31	20. 4. 1 ~ 22. 3. 31	21. 4. 1 ~ 22. 3. 31	20. 4. 1 ~ 22. 3. 31	20. 4. 1 ~ 22. 3. 31

地域連携推進委員会／大学評価委員会／広報委員会／大学広報ホームページ専門委員会／安全衛生委員会

	地域連携推進委員会	大学評価委員会	広報委員会	大学広報ホームページ専門委員会	安全衛生委員会
委員長	副学長 青木 清	理事 佐々木 克孝	副学長 高橋 信夫	マテリアル工学科 宇都正 幸	理事 高橋 信夫
副委員長	学長補佐 鈴木 輝之	学長補佐 小林 道明	学長補佐 田村 淳二	情報処理センター 升井 洋志	
委員	地域共同研究センター長 高橋 修平	機械工学科 柴野 純一	機械工学科 鈴木 聡一郎	機械工学科 佐藤 満弘	技術部 橋本 晴美
	サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長 川村 彰	社会環境工学科 前田 寛之	社会環境工学科 八久保 晶弘	社会環境工学科 三上 修一	〃 白川 和哉
	知的財産本部長 鞘師 守	電気電子工学科 野矢 厚	電気電子工学科 菅原 宣義	情報システム工学科 原田 康浩	保健管理センター所長 本田 明
	機械工学科 鈴木 聡一郎	情報システム工学科 山田 浩嗣	情報システム工学科 後藤 文太郎	バイオ環境化学科 岡崎 文保	バイオ環境化学科 星 雅之
	社会環境工学科 高橋 清	バイオ環境化学科 堀内 淳一	バイオ環境化学科 兼清 泰正	共通講座 鳴島 史之	マテリアル工学科 伊藤 英信
	電気電子工学科 谷本 洋	マテリアル工学科 増田 弦	マテリアル工学科 射水 雄三	地域共同研究センター 内島 典子	地域共同研究センター 有田 敏彦
	情報システム工学科 河野 正晴	共通講座 照井 日出喜	共通講座 鳴島 史之		技術部 岡田 包儀
	バイオ環境化学科 鈴木 勉	事務局 長 石川 護	地域共同研究センター 鞘師 守		〃 松本 正之
	マテリアル工学科 宇都正 幸		事務局 長 石川 護		研究協力課 二村 肇
	共通講座 金倉 忠之				機械工学科 山田 貴延
	事務局 長 石川 護				情報システム工学科 鈴木 範男
					バイオ環境化学科 沖本 光宏
任期	20. 4. 1 ~ 22. 3. 31	21. 4. 1 ~ 23. 3. 31	20. 4. 1 ~ 22. 3. 31		20. 4. 1 ~ 22. 3. 31

施設環境委員会／情報システム運営委員会／第2期中期構想検討特別委員会／環境安全センター／学生支援センター

	施設環境委員会	情報システム運営委員会	第2期中期構想検討特別委員会	環境安全センター	学生支援センター
委員長・センター長	副学長 高橋 信夫	副学長 高橋 信夫	理事 高橋 信夫	副学長 高橋 信夫	副学長 田牧 純一
副センター長				施設課長 永井 雅彦	学生支援課長 梅村 直基
委員・センター員	地域共同研究センター長 高橋 修平	情報処理センター長 亀丸 俊一	理事 佐々木 克孝	社会環境工学科 伊藤 陽司	
	機器分析センター長 吉田 孝	情報処理センター専任教員 升井 洋志	副学長 田牧 純一	情報システム工学科 亀丸 俊一	
	未利用エネルギー研究センター長 庄子 仁	寄高 秀洋	副学長 青木 清	バイオ環境化学科 星 雅之	
	サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長 川村 彰	機械工学科 山田 貴延	機械工学科 大橋 鉄也	伊藤 好二	
	機械工学科 羽二生 博之	社会環境工学科 榎本 浩之	社会環境工学科 山下 聡	小俣 雅嗣	
	社会環境工学科 中尾 隆志	電気電子工学科 川村 武	電気電子工学科 田村 淳二	マテリアル工学科 渡邊 眞次	
	電気電子工学科 武山 眞弓	情報システム工学科 中垣 淳	情報システム工学科 三浦 則明	保健管理センター所長 本田 明	
	情報システム工学科 原田 建治	バイオ環境化学科 三浦 宏一	バイオ環境化学科 吉田 孝	企画広報課 山本 渉	
	バイオ環境化学科 伊藤 好二	マテリアル工学科 石川 和宏	マテリアル工学科 村田 美樹	施設課 早瀬 敦	
	マテリアル工学科 南 尚嗣	共通講座 阿曾 正浩	共通講座 照井 日出喜	福崎 隼人	
	共通講座 柳 等	事務局長 石川 護		後藤 将大	
	事務局長 石川 護			学生支援課 梅村 直基	
				渡部 孝弘	
				長谷川 麻美	
				保健管理センター 辻 由美子	
				技術部 白川 和哉	
				橋本 晴美	
				須澤 啓一	
				三橋 恵治	
任期	20. 4. 1 ~ 22. 3. 31	20. 4. 1 ~ 22. 3. 31		20. 4. 1 ~ 22. 3. 31	

学生よろず相談室／就職支援室／教育IT支援室／入試企画センター

	学生よろず相談室	就職支援室	教育IT支援室	入試企画センター	
室長・センター長	共通講座 平野 温美	機械工学科 柴野 純一	情報システム工学科 三波 篤郎	副学長 佐々木 克孝	
室長補佐・副室長・副センター長		学生支援課副課長 藤田 美代子	電気電子工学科 平山 浩一	社会環境工学科 山下 聡	
室員・センター員	機械工学科 渡辺 美知子	社会環境工学科 宮森 保紀	社会環境工学科 宮森 保紀	機械工学科 柴野 純一	
	社会環境工学科 伊藤 陽司	電気電子工学科 谷藤 忠敏	マテリアル工学科 射水 雄三	電気電子工学科 平山 浩一	
	情報システム工学科 山田 浩嗣	情報システム工学科 原田 建治	情報処理センター長 亀丸 俊一	情報システム工学科 亀丸 俊一	
	情報システム工学科 中垣 淳	バイオ環境化学科 岡崎 文保	情報処理センター 寄高 秀洋	バイオ環境化学科 岡崎 文保	
	マテリアル工学科 射水 雄三	マテリアル工学科 村田 美樹	学生支援課長 梅村 直基	マテリアル工学科 阿部 良夫	
	共通講座 柳 等		学生支援課副課長 斉藤 仁史	” 宇都 正幸	
	保健管理センター所長 本田 明			共通講座 土橋 善仁	
	学生支援課長 梅村 直基				
	学生支援課副課長 藤田 美代子				
任期	20. 4. 1 ~ 22. 3. 31	20. 4. 1 ~ 22. 3. 31	20. 4. 1 ~ 22. 3. 31	21. 4. 1 ~ 23. 3. 31	

クラス担任／就職担当教員

	クラス担任（1年）	クラス担任（2年）	クラス担任（3年）	クラス担任（4年）	就職担当教員
	機械・社会環境系	機械工学科 富士明良	機械システム工学科 尾崎義治	機械システム工学科 佐々木正史	機械システム工学科 富士明良
	A 主担任 平野温美	〃 林田和宏	〃 松村昌典	〃 柴野純一	〃 三戸陽一
	〃 副担任 高橋清	社会環境工学科 中山恵介	電気電子工学科 田村淳二	電気電子工学科 谷藤忠敏	電気電子工学科 谷藤忠敏
	B 主担任 土橋善仁	〃 永禮英明	〃 柏達也	〃 平山浩一	〃 平山浩一
	〃 副担任 中尾隆志	電気電子工学科 植田孝夫	情報システム工学科 後藤文太郎	情報システム工学科 原田建治	情報システム工学科 柴田孝次
	C 主担任 福士航	〃 熊耳浩	〃 今井正人	〃 渡辺文彦	〃 原田建治
	〃 副担任 小林道明	情報システム工学科 鈴木範男	化学システム工学科 中谷久之	化学システム工学科 青山政和	化学システム工学科 青山政和
	D 主担任 芳賀和敏	〃 早川吉彦	機能材料工学科 川村みどり	機能材料工学科 阿部良夫	機能材料工学科 阿部良夫
	〃 副担任 渡辺美知子	バイオ環境化学科 兼清泰正	土木開発工学科 伊藤陽司	土木開発工学科 八久保晶弘	土木開発工学科 榎本浩之
	情報電気エレクトロニクス系	マテリアル工学科 南尚嗣	〃 堀彰	〃 宮森保紀	〃 八久保晶弘
	A 主担任 阿曾正浩			〃 宮森保紀	〃 宮森保紀
	〃 副担任 川村武				
	B 主担任 金倉忠之				
	〃 副担任 田口健治				
	C 主担任 水本正晴				
	〃 副担任 榎井文人				
	D 主担任 鳴島史之				
	〃 副担任 三波篤郎				
	バイオ環境・マテリアル系				
	A 主担任 柳 等				
	〃 副担任 佐藤利次				
	B 主担任 照井日出喜				
	〃 副担任 佐藤利次				
	C 主担任 山田健二				
	〃 副担任 渡邊眞次				
任期	21. 4. 1 ~ 22. 3. 31	21. 4. 1 ~ 22. 3. 31	21. 4. 1 ~ 22. 3. 31	21. 4. 1 ~ 22. 3. 31	21. 4. 1 ~ 22. 3. 31

= 受賞 =

多田旭男特任教授(地域連携・研究戦略室) 平成 20 年度触媒学会功績賞を受賞

(研究協力課)

地域連携・研究戦略室所属の多田旭男特任教授に、触媒学会より平成 20 年度触媒学会功績賞を贈呈するとの連絡がありました。

多田教授は、長年にわたり「無機リン酸塩の表面酸塩基性質と触媒作用、及び感湿特性」、「メタン直接分解によるCO₂ 無排水素製造、及び機能性ナノ炭素の製造」の研究で優れた業績をあげ、産業界における実用化にも尽力され(特許技術実施権を獲得した道内企業は「平成20年度北海道新技術・新製品開発奨励賞」表彰を受ける)地域にも貢献されております。

また触媒学会活動においては、北海道地区

幹事・編集委員・北海道地区代表幹事・理事職等を9年にわたり歴任され、触媒学会に多大なる貢献をされました。

更に、教育分野においても「触媒化学」教科書の定番ともいえる服部英・菊池英一・瀬川幸一・多田旭男・射水雄三著「新しい触媒化学」、三共出版(初版第1版 1988 年)の出版構想は多田教授の企画・発案で生まれ、斬新な構成・内容は多くの読者の支持を得て、現在まで計 29 刷を重ねていることから、触媒学会の名を高めるとともに、触媒学会の発展に顕著な貢献をしている事が評価され、触媒学会功績賞に値するものと認められたものです。

= 国際交流 =

2009 年留学生交流の夕べを開催

(研究協力課)

3月9日(月)本学コミュニケーションアトリウムにおいて、外国人留学生と北見市及び近郊の国際交流関係団体、ホストファミリー及び本学教職員など約 90 名が参加して「2009 年留学生交流の夕べ」を開催しました。

鮎田学長の挨拶に続いて、今春卒業・修了する 13 名の留学生を代表して中国からの留学生 趙 卓維、徐 乃丹さんの二人から、日本での留學生活の思い出や将来の抱負などエピソードを交えたスピーチが行われた後、卒業生・修了生の紹介に併せて留学生一人一人に学長から記念品が贈呈されました。

交流会には、留学生が日頃から大変お世話になっている支援団体やホストファミリーの方々が多数参加されており、様々な活動や思い出話に花が咲いていました。

また、アトラクションとして在学留学生の日本語による寸劇「日本昔ばなし」、ダンスなどが披露され、最後にホストファミリーと共に日本の歌の合唱もあり、盛況の中にも和やかな雰囲気の中に閉会しました。



寸劇「日本昔ばなし」



ホストファミリーと合唱

「シーズ発掘試験」公募解説セミナーを開催

(研究協力課)

2月10日(火)、図書館多目的室において「シーズ発掘試験公募解説セミナー」が開催されました。

セミナーには科学技術振興機構(JST)イノベーションプラザ北海道から技術参事・佐藤完二氏およびシーズ育成スタッフ・新保光代氏をお招きし、青木清副学長の挨拶の後、両氏にシーズ発掘試験の事業内容について解説を行って頂きました。

セミナーは佐藤参事によるこれまでのシーズ発掘試験の申請・採択状況の解説に始まり、

新保氏によるシーズ発掘試験の事業内容の説明、不採択課題の傾向の解説、申請書作成についての注意事項とアドバイス等と続きました。

当日は教員やコーディネータを始めとする24名の方に参加いただきましたが、皆JSTのお二方の話に熱心に耳を傾けており、申請を目前に控えた参加者にとって本セミナーは大変有意義なものとなったようでした。



青木副学長の挨拶



シーズ発掘試験について解説・アドバイスする
佐藤完二氏(左)、新保光代氏(右)



熱心に話を聞く教員とコーディネータの様子

文部科学省科学技術総合研究委託・地域再生人材育成事業 「新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン・工農教育プログラム、 第2期生成果発表会、修了式」を実施

(研究協力課)

地域連携・研究戦略室は、3月13日(金)に、文部科学省科学技術総合研究委託・地域再生人材育成事業「新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン・工農教育プログラム第2期生成果発表会」を実施、3月23日(月)に同修了式を実施しました。

成果発表会は、地域共同研究センター2階会議室で開催され、JSTの宮岸明:科学技術振興調整費業務室主任調査員、及び5名の評価委員の見守る中、第2期受講生8名が2年間のプログラムの成果について、緊張の中で得られた知識の活用による自身の目指すビジネスプランを発表し、評価委員や参列者からの質問に回答していました。

プランの中には、牡丹園の再生計画が含まれたものもあり期待が寄せられておりました。

修了式は、評価委員の評価判定を待ち、翌週の23日(月)に、図書館多目的室で実施されました。式では高橋信夫理事より、2年にまたがる受講に対する慰労の言葉があり、この工農教育プログラムは、身に付けた知識と人の輪を今後如何に活用できるかが重要であり、こ

れからが本当の開始となり、今後も大学は全面的にバックアップします。とのエールが送られ、修了者に修了証書が手渡されました。引き続き、高橋修平工農教育タスクフォース委員長と山岸喬工農プロジェクトタスクフォース委員長より祝辞が送られ、多忙な中、プログラムを修了された皆さんへ慰労と今後の活躍を期待する言葉が贈られました。

最後に受講生代表として、篠尾和孝氏(河西建設(株))より、厳しい社会情勢の中でこのプログラムを知り飛びついたこと、生産から加工・商品化、プレゼンスまでを経験できたこと、修了生仲間や、大学・諸公的機関との人的繋がりができことへの謝辞と、これを活かす今後の決意が述べられました。

式終了後は、総合研究棟3Fリフレッシュルームで祝賀会が開催されました。

祝賀会では成果品も多数出品され、有田准教授から成果品の一つが、企業より商品化の申し出があり、交渉に入っていることが報告され、この事業の大きな追い風となることを全員で喜び合いました。



成果発表会 H21.3.13



修了式 H21.3.23



修了者と大学側スタッフ(欠席者有り)



ノンアルコール修了祝賀会

知的財産セミナーを開催

(研究協力課)

3月10日(火)、本学多目的講義室において「知的財産セミナー」が開催されました。

北見工業大学と室蘭工業大学は、産学官連携戦略展開事業(戦略展開プログラム)に平成20年度から共同で採択され、「連携知財本部」を設置しています。本セミナーは、この連携知財本部の活動の一環として、両大学の主催で行われたものです。当日は、文部科学省研究環境・産業連携課 技術移転推進室室長の小谷 和浩氏による基調講演「大学に求められる知的財産活動とその体制」に始まり、続いて(株)セルフウイング代表取締役社長の平

井由紀子氏による特別講演「大学発ベンチャーと地域における新産業創出」が行われました。その後、北見工大知財本部長の鞘師教授をコーディネータに、「大学の知的財産を生かした北海道の産業振興を考える」と題したパネルディスカッションが行われました。

本セミナーは、本事業で導入されたテレビ会議システムを使って北見会場と室蘭会場を結んで行われ、北見会場では学内教職員及び地域自治体、産業関係者53名が参加し、室蘭会場では16名の参加がありました。



小谷室長の基調講演



会場の様子

校舎改修工事の完了

(施設課)

平成20年7月29日より実施していた電気電子工学科2号棟及びバイオ環境化学科2号棟等の校舎改修工事が3月10日をもって完了しました。

この改修工事は築後30年を経過し、老朽化が著しかった校舎を平成20年に行われた改組に伴い、スペース使用の最適化を行い、教育研究に関する機能を改善するとともに耐震補強をする事で安心安全な環境を確立する目的で行われました。

また、バリアフリー対策として、社会環境工学科2号棟及び機械工学科2号棟にエレベーターを設置しました。

付近建物を利用している方々へご不便をおかけ致しましたが、ご協力ありがとうございました。



増築された社会環境工学科2号棟エレベーター



改修を終えたバイオ環境化学科2号棟

= 日誌 =

(企画広報課)

2 月

- 9 日 大学院博士前期課程(第2次)入学試験
(学力検査)
大学院博士後期課程(第2次)入学試験
(面接)
- 10 日 大学院博士前期課程(第2次)入学試験
(面接)
シーズ発掘試験公募解説セミナー
- 14 日 合同企業研究セミナー(～15日)
- 17 日 入学者選抜委員会
入学試験実施委員会
学生委員会
- 18 日 教授会、研究科委員会
大学院博士課程合格発表
私費外国人留学生選抜合格発表
- 23 日 役員会
入学者選抜委員会
- 25 日 教育研究評議会
発明審査委員会
国際交流委員会
- 26 日 若手職員勉強会
教務委員会
- 27 日 入学者選抜委員会
ピア・サポーターフォローアップ研修
北見工業大学MOTオープンカレッジ



3 月

- 3 日 後期日程試験監督員説明会
- 4 日 入学者選抜委員会
就職支援室会議
- 5 日 教授会、研究科委員会
学生委員会
- 6 日 前期日程合格発表
- 9 日 役員会、教授会
教務委員会
- 10 日 平成20年度産学官連携戦略展開事業(戦略
展開プログラム)「知的財産セミナー」
- 12 日 個別学力検査(後期日程)
- 13 日 工農教育プログラム第2期成果発表会
- 16 日 役員会
- 17 日 教育研究評議会
入学者選抜委員会
教務委員会
- 18 日 学位記授与式
- 19 日 教授会
入学者選抜委員会
学生よろず相談室会議
- 20 日 後期日程合格発表
- 23 日 経営協議会、役員会
工農教育プログラム第2期修了式・懇親会
地域共同研究センター兼任教員会議
- 26 日 就職支援室会議
- 31 日 永年勤務者表彰
工農教育推進委員会